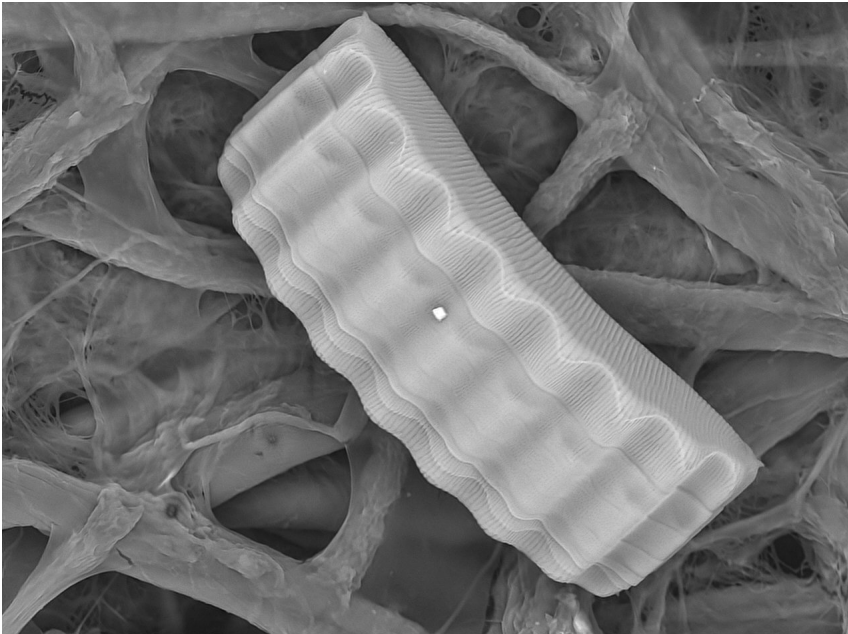
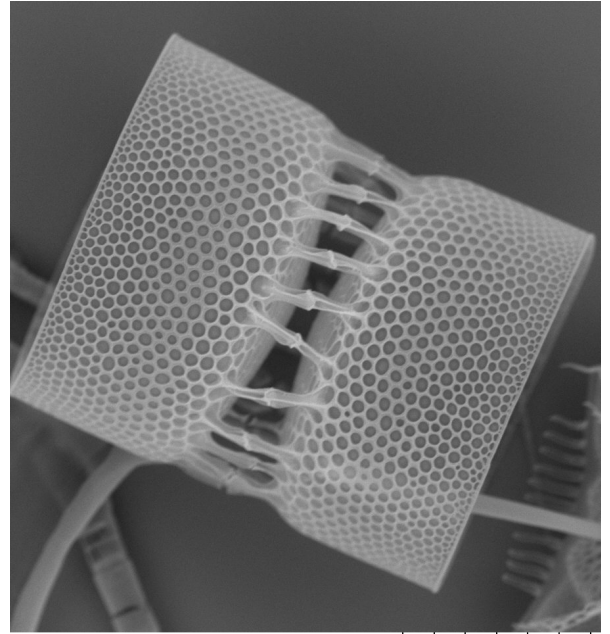


珪藻の世界

電子顕微鏡による観察



0199 2016/07/05 15:55 H D6.2 x1.5k 50 μm



2017/04/25 14:56 HL D4.4 x1.2k

珪藻とは

珪藻（けいそう）は植物プランクトン的一种で、私達の周りの池、沼、川、海などいたるところにいます。ただ、非常に小さいので肉眼ではほとんど見る事ができず、光学顕微鏡や電子顕微鏡でその姿を見ることができます。

今回の「珪藻の世界」では珪藻の紹介と電子顕微鏡での観察体験をします。

▶ 珪藻の世界の紹介 珪藻はレーベンフック（1632～1723）が顕微鏡を発明してからすぐに発見されて、その観察の歴史は300年以上になります。現在でもまだ新種が発見されており、その種類は5万種類とも10万種類とも言われています。珪藻は水質汚濁の指標として使われたり、油を含む珪藻から油を取る可能性などもあります。

▶ 電子顕微鏡での観察体験 電子顕微鏡1927年にドイツで発明され、その後の改良を経て、現在では超詳細な観察に欠くことのできない観察装置となりました。四日市大学生物学研究所には日立ハイテクノロジーズ製のHITACHI Miniscope TM3030という電子顕微鏡があります。上の写真は珪藻の殻をこの顕微鏡で撮影したものです（左：ユーノチア、右：ステファノピクシス）。

主催：生物学研究所

開催日：2019年3月16日（土）

開催場所：四日市大学・第2実験室

開催時刻：13時30分～15時00分

講師：田中正明・小川東

連絡先：四日市大学・小川東（つかね）